

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
麻生建築&デザイン専門学校		平成9年11月26日	竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13 (電話) 092-415-2292		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日	理事長 麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999		
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士	
工業	工業専門課程	インテリアデザイン科			平成25年文部科学省 告示第3号	—	
学科の目的	家具のデザインやカラーコーディネートなど快適なインテリア空間を演出するために、ショップや商業施設の設計とディスプレイデザイン・サインデザインなど「見せる」ことを目的とするデザイン等を学ぶ。それぞれ「住宅デザイン専攻」「ショップデザイン専攻」を必修選択で学び、ウエイトを調整する。						
認定年月日	平成26年3月31日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1800	1140	960	—	—	—
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		119人	1人	4人	20人	24人	
学期制度	■前期: 4月1日~8月31日 ■後期: 9月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価、3分の2以上の出席が必要		
長期休み	■夏季: 8月10日~9月7日 ■冬季: 12月25日~1月4日 ■春季: 3月8日~4月5日			卒業・進級 条件	単位を取得していること 卒業基準検定を取得している 学年の出席率が90%以上 学生としてふさわしい生活態度		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 各種検定対策補講(希望者)、数学ゼミ(希望者)、 BIMゼミ(希望者)			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有		
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 大和ハウス工業株式会社(施工管理者職) 建設業 ■就職指導内容 面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導 ■卒業生数 65 人 ■就職希望者数 61 人 ■就職者数 60 人 ■就職率 98.4 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 92.3 % ■その他 ・進学者数: 1人 ・就職斡旋希望せず: 3人 (令和3年度卒業者に関する 令和4年4月1日時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年4月1日時点の情報) 資格・検定名 種 受験者数 合格者数 2級建築士受験資格 ② 65人 65人 インテリアコーディネーター ③ 65人 10人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③の いずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得する もの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 空目制作室		
中途退学 の現状	■中途退学者 11名 令和3年5月1日時点において、在学者144名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者133名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、健康問題など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの検討会の実施。学科責任者や保護者を含めた面談。ガイダンス記録による報告。			■中退率 7.6%			
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 ・甚大な自然災害が発生した際、被災の状況に応じて校納金、入学金を減免する。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 前年度の給付実績者数: 5人						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無						
当該学科の ホームページ URL	https://asojuku.ac.jp/aadc/interior/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

また、広く建築業界の動向や求められる知識レベルを把握するためお客様アンケートを実施し、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	③
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	②
照井 善明	特定非営利活動法人 FUKUOKAデザインリーグ	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	①
今泉 清太	麻生建築&デザイン専門学校 校長代行	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
中園 理恵子	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
赤星 亜美	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
山本 佳明	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
工藤 有紀	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期) 年2回 7月、12月

(開催日時(実績))

第1回 令和3年7月16日 15:40～17:00

第2回 令和3年12月10日 15:40～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

コロナ禍における業界動向を共有する中で、個々の対応力や自ら発信・追及出来る人材のニーズが今まで以上に高まっており、将来のビジョンを示しやりがいに繋がるよう促していく必要があるとのご意見をいただいた。そのため、例年好評である顧客と営業役に分かれてのロールプレイ授業で、顧客のニーズを的確に聞き取り臨機対応に対応できる能力を養い、加えてプレゼンテーションを授業に多く取り入れることにより、自身の能力や適性を測り、業務内容のミスマッチによる早期退職を回避し、さらに業務内容と学生との適材適所のマッチングにつながるよう、授業担当講師間で評価への反映配分の検討を継続しつつ意識して学習指導した。また、コロナの感染状況を伺いつつ店舗見学やショールーム見学で実際の営業活動を見学させ、職業理解へと繋げる機会の創設を引き続き計画・検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等とのヒアリング及びお客様アンケートの情報に基づき、インテリアデザイナー・建築士として活躍するために、学んできた知識やCAD等の技術、コミュニケーション能力等の実務適応能力の確認を行うことを目的として企業と連携した演習を実施する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業実務担当者による実務案件を参考にし、活用頻度の多い場面を想定した作図が行えるよう授業課題を選定していただく。同時に二級建築士の取得への力となるよう授業課題を選定する。

企業の建築士有資格者による、過去出題傾向を把握したエスキース対策指導を行い、社内研修（合格対策）相当の指導を行う。その評価については、建築士試験対策に加えその後の実務作業プロセスへの活用できるという視点で、講師と本校教師が協議し決定する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
建築士対策（製図Ⅱ）	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース、製図能力の習得。設計作業のプロセスを踏まえた制作工程を理解する。	アーキ・スタッフ建築工房

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

「教職員研修規程」に基づき計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

・研修名「海外見本市によるインテリア新作レポート2021」（株式会社ハウジングエージェンシー）

期間：令和3年7月28日、対象（参加者）：専任教員

内容：ニューノーマルの暮らしのデザイントレンド。ステイホームでの暮らしに求められるトレンド、カラー、手法について

② 指導力の修得・向上のための研修等

・研修名「個別対応力強化研修」（連携企業等：組織デザイン・ラボ）

期間：令和3年8月18日、令和4年2月16日、※オンライン 対象（参加者）：専任教員

内容：講義＋個人ワーク＋グループワーク

・研修名「ファシリテーション研修」（連携企業等：株式会社ONDO）

期間：令和4年3月18日 ※オンライン 対象（参加者）：専任教員

内容：学生の発言を引き出す質問のコツ、上手な意見のまとめ方、オンラインファシリテーションのポイントについて

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

・研修名「海外見本市によるインテリア新作レポート2022」（株式会社ハウジングエージェンシー）

期間：令和4年日にち未定 対象（参加者）：専任教員

内容：ニューノーマルの暮らしのデザイントレンド。ステイホームでの暮らしに求められるトレンド、カラー、手法について

② 指導力の修得・向上のための研修等

・研修名「ファシリテーション研修～オンライン授業編」（連携企業等：株式会社ONDO）

期間：令和4年8月31日 ※オンライン 対象（参加者）：専任教員

内容：学生の発言を引き出す質問のコツ、上手な意見のまとめ方、オンラインファシリテーションのポイントについて

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果を評価しHP等を通して公表する。また、学校関係者評価委員会は、本校の関係者として、保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育活動に対して、コロナ禍に対応した各種学校運営活動への取り組みを肯定的に評価をいただきつつも、オンライン授業における授業効果の検証の追求をするように意見をいただいた。オンライン授業効果についてはミニアンケートや理解度の確認テストを実施し組織的改善を行うようにしている。また、各教員がアンケート結果のフィードバックを受け、指導力の把握と改善にあたるような仕組みとして取り組んだ。

学生数の増加による環境の充実において、図書館の蔵書の拡充と、貸し出し図書の充実を図るよう意見をいただいた。グループ各校各学科分野との調整がある中ではあるが、インテリアデザイン科としても図書希望を挙げ拡充の働きかけを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
尾崎 由美子	建築工学科 在校生 保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者
玉ノ井 健人	令和3年度 建築工学科 卒業生	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
市川 仁士	福岡県立 福岡工業高等学校 校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校
小林 芳光	博多区博多駅南第4区自治会 民生委員	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	地域住民
元木 昭平	ウムデザインオフィス 代表	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	有識者
井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	有識者
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	有識者
宮本 清美	株式会社エイジェック 課員	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	企業
和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
高崎 強	株式会社 久米設計 九州支社 支社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
中野 貴嗣	株式会社 九州三田技術コンサルタンツ 設計関連センター センター長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
高木 秀樹	株式会社 住まいえ 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
板橋 正志	株式会社 ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業
松田 淳司	ゼネラルアサヒ コミュニケーションデザイン本部 企画デザイン部 部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
 URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aadc/2021/hyoka.pdf>
 公表時期: 令和4年5月18日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 企業等との連携及び協力により、実践的な職業教育の質の向上を推進するため、教育活動及び学校運営の状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、歴史、教育目標、ASOの考え方
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学園祭・部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、学生寮、就職サポート、留学生サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、終始計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
 ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(学生便覧))
 URL: <https://asojuku.ac.jp> 、 <https://asojuku.ac.jp/aadc>

授業科目等の概要

(工業専門課程 インテリアデザイン科) 令和4年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		建築設計製図Ⅰ	設計製図の基本の習得する(線・文字の基本的な描き方と建具等の表示記号の理解)木造建物、鉄筋コンクリート造の製図法を習得する。	1前	60	4	○			○		○		
2	○		建築設計製図Ⅱ	小規模住宅設計を課題として建築計画と設計製図の基礎を習得する。特殊建築物(学校、病院、劇場、映画館などの)の設計法を身に付ける。	1後	60	4	○			○		○		
3	○		建築計画Ⅰ	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
4	○		建築計画Ⅱ	公共建築のうち教育施設(幼稚園、小中学校等)や外部空間、自然環境と建築の関係等を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
5	○		建築計画Ⅲ	建築として主に公共建築について学ぶ。特に図書館、美術館、コミュニティセンター等の社会教育施設や少子高齢化社会に向けて医療施設、福祉施設について学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
6	○		建築環境工学	建築環境工学の基礎的な知識として、熱、光、空気、音の分野について学習し、知識の習得を行う。	1前	15	1	○			○			○	
7	○		建築設備	各種建物の特長と建築設備の関わり、空気調和、給排水、衛生、電気等の各種建築設備における基本的な事項と考え方について解説する。	1前	15	1	○			○		○		
8	○		建築構造力学Ⅰ	「建築力学の基礎概念である力・力のモーメント」「力のつり合いなどの静力学の基礎」「静定構造物の反力・応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
9	○		建築構造力学Ⅱ	「静定構造物の応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
10	○		建築一般構造Ⅰ	木造建築物の構造を理解し、必要な部材名及びその役割を理解し基礎知識を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
11	○		建築一般構造Ⅱ	鉄筋コンクリート構造の基本的な構造を理解し、その構造形式の特徴について学ぶ。鉄骨構造の構造形式などの特徴や部材の設計方法について学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		

(工業専門課程 インテリアデザイン科) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			建築材料	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
13	○			建築施工Ⅰ	請負契約から工事計画・工事管理まで学習する。また、各種工事についての知識を習得する。	1後	30	2	○			○		○		
14	○			建築施工Ⅱ	鉄骨造、各種仕上げ工事などに関する要点を習得する。	2前	30	2	○			○		○		
15	○			建築法規Ⅰ	基本となる建築基準法を中心に学習し、建築物の設計等を行う際の最低の基準を学ぶ。主に単体規定を学習する。	1前	30	2	○			○			○	
16	○			建築法規Ⅱ	都市計画から見た建築物について学ぶ。主に集団規定を学習する。	1後	30	2	○			○			○	
17	○			建築法規Ⅲ	各部の高さや防火規定など、各規制や緩和を知り、より応用力を身につける。更に卒業研究でのデザインに応用できるようにする学習する。	2前	30	2	○			○		○		
18	○			建築士対策(製図Ⅰ)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得。設計作業のプロセスを踏まえた制作工程の理解する。	2前	30	2		○		○			○	
19	○			建築士対策(製図Ⅱ)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得。設計作業のプロセスを踏まえた制作工程の理解する。	2後	60	4		○		○		○	○	○
20	○			建築士対策(計画)	二級建築士の学科試験の学科Ⅰ(計画)を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
21	○			建築士対策(法規)	二級建築士の学科試験の学科Ⅱ(法規)を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
22	○			建築士対策(構造)	二級建築士の学科試験の学科Ⅲ(構造)を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
23	○			建築士対策(施工)	二級建築士の学科試験の学科Ⅳ(施工)を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		

(工業専門課程 インテリアデザイン科) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
24	○			検定対策ゼミ I A	インテリアコーディネーター検定対策のため、知識の総仕上げとして、過去問題を中心に知識を深める。	1前	60	4	○			○		○		
25	○			検定対策ゼミ I B	各種検定対策授業の実施	1後	30	2	○			○		○		
26			○	検定対策ゼミ II A (選択)	各種検定対策授業の実施	2前	60	4	○			○			○	
27			○	検定対策ゼミ II B (選択)	各種検定対策授業の実施	2後	30	2	○			○		○		
28	○			CAD演習 I A	建築設計の基本的な考え方について学ぶ。JW-CADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	1前	60	4		○		○		○		
29	○			CAD演習 I B	CAD演習 I Aの基礎的な知識をベースに木造住宅の設計演習を実施する。	1後	60	4		○		○		○		
30	○			CAD演習 II A	AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	2前	30	2		○		○		○		
31	○			CAD演習 II B	前期のAutoCADの基本操作から応用操作をマスターし、RC造など、大型建築物を短時間で作図できる能力を養う。	2後	30	2		○		○		○		
32	○			CG演習 I	Illustrator & Photoshopの基本操作を習得する。画像を作成・編集する技術を学ぶ。	1後	60	4		○		○		○		
33	○			CG演習 II A	2D、3DCGソフトを用いてインテリアデザインを表現するための基本的技術の習得を目指す。	2前	60	4		○		○		○		
34	○			CG演習 II B	CG演習 I・IIで習得した基本技術を駆使し、オリジナルプランのインテリアデザインを表現する応用技術の習得を目指す。	2後	30	2		○		○		○		
35	○			インテリアコーディネーション I	住宅内装計画の基本設計・プレゼンテーション技法を学ぶ。	1前	30	2		○		○			○	

(工業専門課程 インテリアデザイン科) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
36	○			インテリアコーディネーションⅡ	インテリアコーディネーションⅠで学んだ基礎知識をより実践で活用できるよう詳細な知識、また魅力的なプレゼンテーション手法の習得を目指す。	2前	30	2		○		○			○	
37	○			デザイン演習Ⅰ	自分の発想、考え方を、形に表現できる力を身につける。	1前	30	2		○		○		○		
38	○			色彩学	色彩の基本的知識の習得と、配色知識および検定対策を行なう。	1前	30	2	○			○			○	
39	○			住宅デザイン	インテリアに関する基礎知識を学び、快適な住空間を創造する知識を身につける。	1後	60	4		○		○		○	○	
40	○			インテリア設計	プランニング力を付け、平面図、展開図、家具の3面図を描く。	2前	60	4		○		○			○	
41		○		家具実習(選択)	家具製作を通して、材料(木材の種類、特徴について)、椅子の構造、部材、塗料(種類と各特徴)などの知識の確認と理解を深める。	2後	60	4		○		○		○	○	
42	○			卒業制作	本校における学びの集大成としてその成果をまとめる。	2後	90	6		○		○		○	○	
43	○			専攻ゼミⅠ(インテリア)	建築化された家具、移動可能な家具及び建具などの構造・技術に関する知識習得及び設計技術の習得。	2前	30	2	○						○	
44	○			専攻ゼミⅡ(インテリア)	建築化された家具、移動可能な家具及び建具などの構造・技術に関する知識習得及び設計技術の習得。	2後	30	2	○						○	○
45	○			ビジネスマナーⅠ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(立ち居振る舞い・敬語・ビジネス文書)	1前	30	2	○			○		○		
46	○			ビジネスマナーⅡ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(交際業務・来客対応・電話対応)	2前	30	2	○			○		○		
47	○			G C B I	グローバルシティズンの育成をめざし、感謝心と思いやりをもった人材を養成する。	1前	15	1	○			○		○		

(工業専門課程 インテリアデザイン科) 令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
48	○			G C B II	グローバルシティズンの育成をめざし、ビジョンと志をもった人材を養成する。	1後	15	1	○			○		○		
49	○			就職実務 I A	就職をするということ、さまざまな雇用形態と働き方、求められる人材像を考えながら仕事について、働くことについて考えていく。	1前	15	1	○			○		○		
50	○			就職実務 I B	就職をするということ、さまざまな雇用形態と働き方、求められる人材像を考えながら仕事について、働くことについて考えていく。	1後	15	1	○			○		○		
51	○			就職実務 II A	各学生の就職活動の支援。履歴書の書き方や面接の受け方等を、個別にサポートする。	2前	30	2	○			○		○		
52	○			就職実務 II B	各学生の就職活動の支援。履歴書の書き方や面接の受け方等を、個別にサポートする。	2後	30	2	○			○		○		
53			○	キャリア教育 I (選択)	自分のキャリア像について考える。	1後	30	2	○			○		○		
54			○	キャリア教育 II (選択)	各学生のキャリア発達を支援し、キャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる。	1後	30	2	○			○		○		
55			○	キャリア教育 III (選択)	社会人として必要な心構え・マナーを再確認する。就職意識、社会人としての自覚を持つ。職場で大切な行動を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
56			○	数学ゼミ I A (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	1前	15	1	○			○				○
57			○	数学ゼミ I B (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	1後	15	1	○			○		○		
58			○	数学ゼミ II A (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	2前	15	1	○			○		○		
59			○	数学ゼミ II B (選択)	専門教科に必要とする力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	2後	15	1	○			○		○		

(工業専門課程 インテリアデザイン科) 令和4年度																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
60			○	BIM専攻 I A (選択)	ビルディングインフォメーションモデリング(BIM)についての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上を図る。	1 前	15	1		○					○	
61			○	BIM専攻 I B (選択)	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	1 後	15	1		○					○	
62			○	BIM専攻 II A (選択)	BIMについての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上を図る。	2 前	15	1		○					○	
63			○	B I M 専 攻 II B (選択)	B I M 手 法 を 駆 使 し、 作 品 制 作 や 競 技 設 計 へ 挑 戦 す る こ と で、 技 術 の 向 上 を 図 る。	2 後	15	1		○					○	
合計				63 科目			2100時間(140単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①最終学年の終了時において、履修すべき全授業科目（実習を含む）に合格し、当該学年における単位数を取得していること。 ②出席率が当該学年の出席時間数の90%以上であること。 ③国土交通省が定めた規定の時間を満たした者 ④学生としてふさわしい生活態度であること。 上記基準を満たせない者は、他の成績科目、出席状況などを参考に卒業判定会議により判定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週